

会員向けアンケート

職場への車椅子等の導入・廃棄編

回答募集期間：2021年3月7日～4月4日

回答数：147



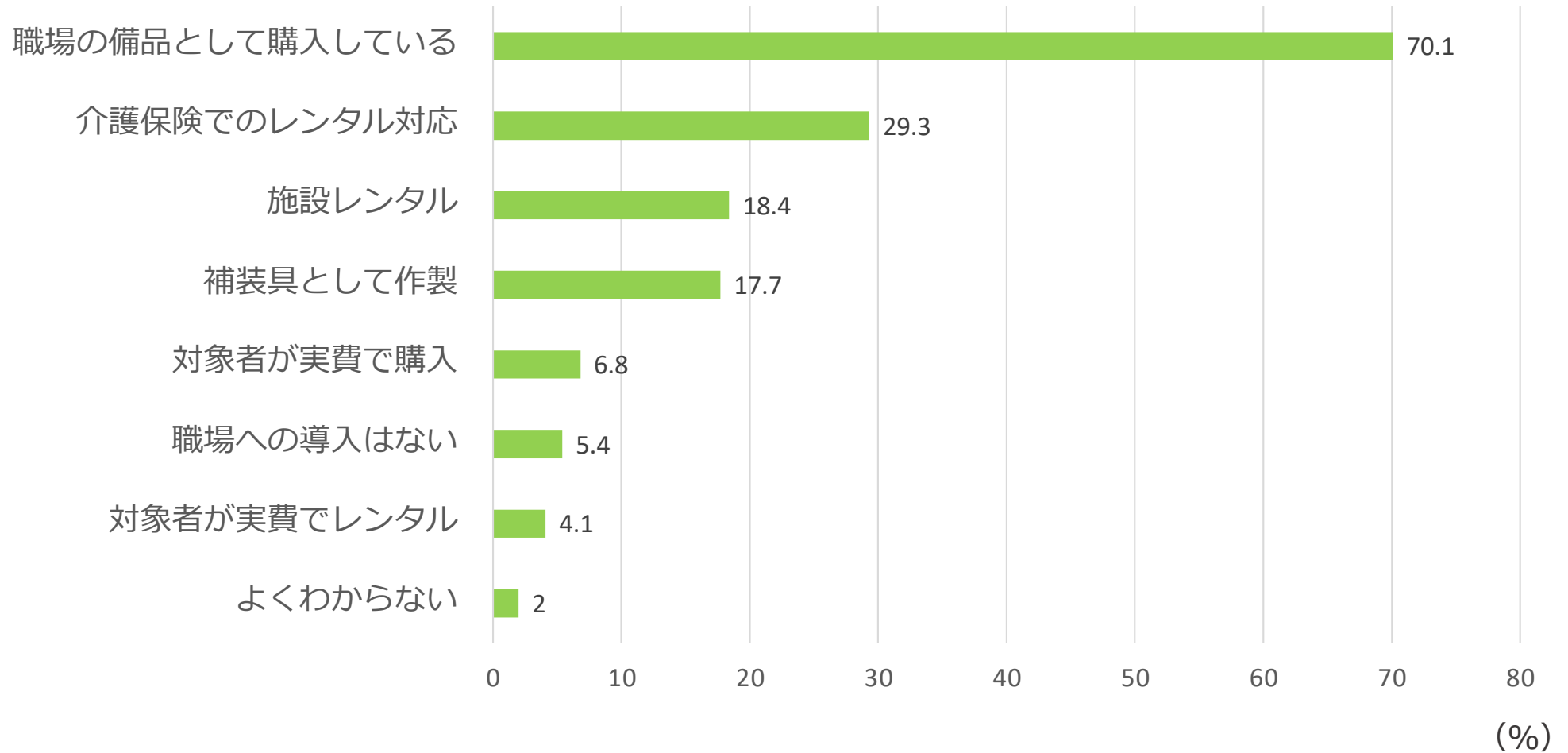
特定非営利活動法人

日本シーティング・コンサルタント協会

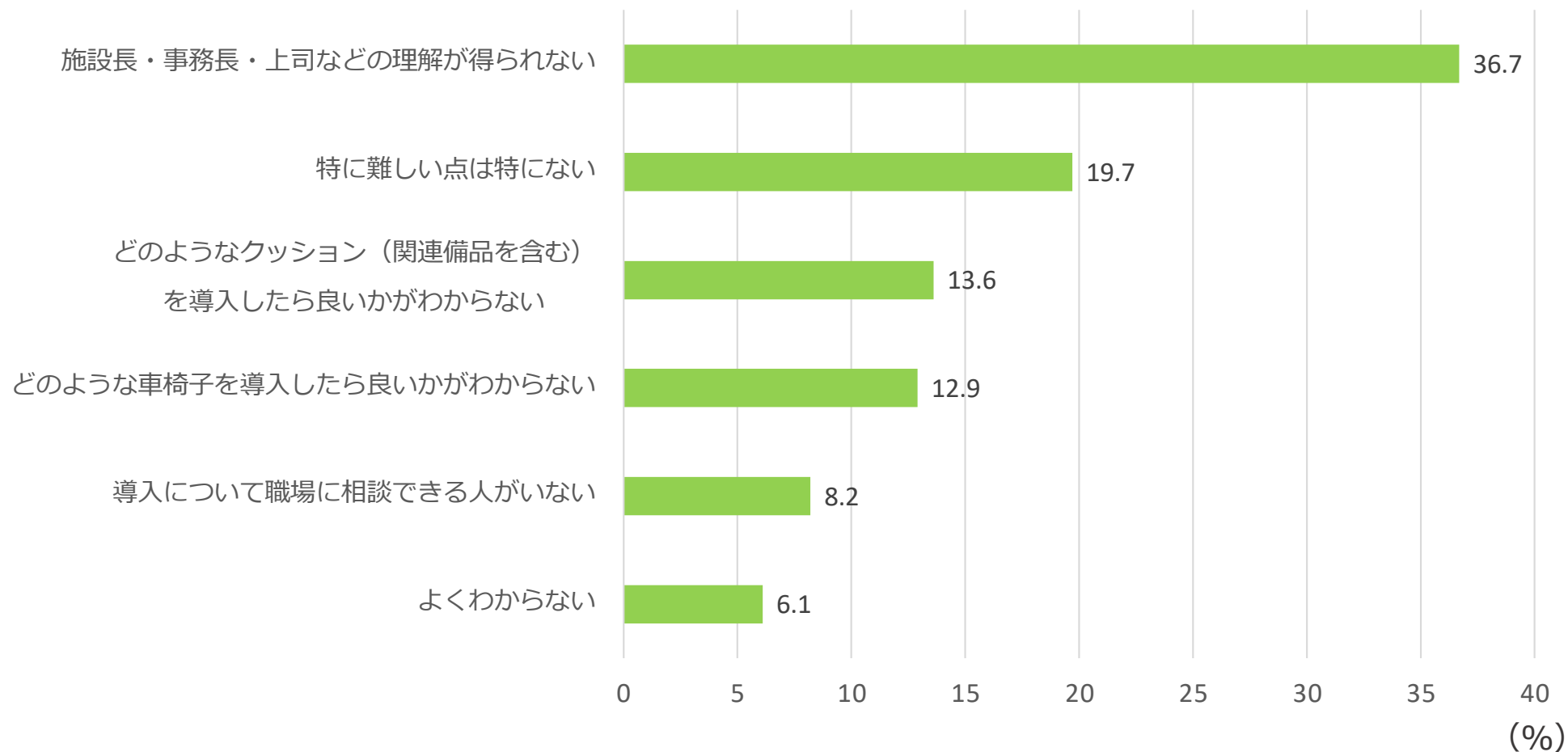
The Japanese Society of Seating Consultants

Q. 職場での車椅子の導入手段

(複数回答可。上位二つを選択)



Q. 職場への車椅子の導入のプロセスにおいて、 難しいと感じる点① (複数回答可)

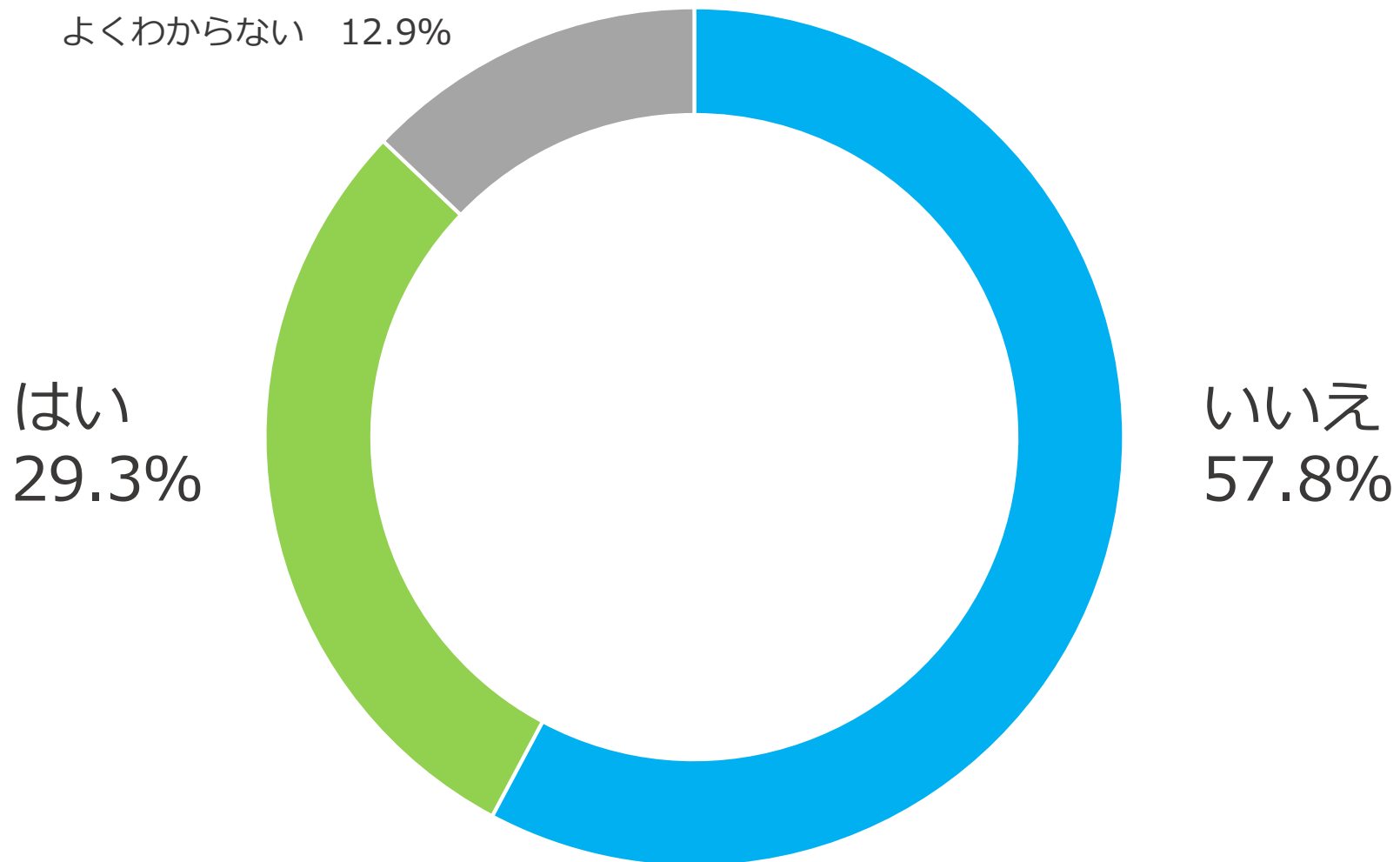


Q. 職場への車椅子の導入のプロセスにおいて、 難しいと感じる点② (その他の回答)

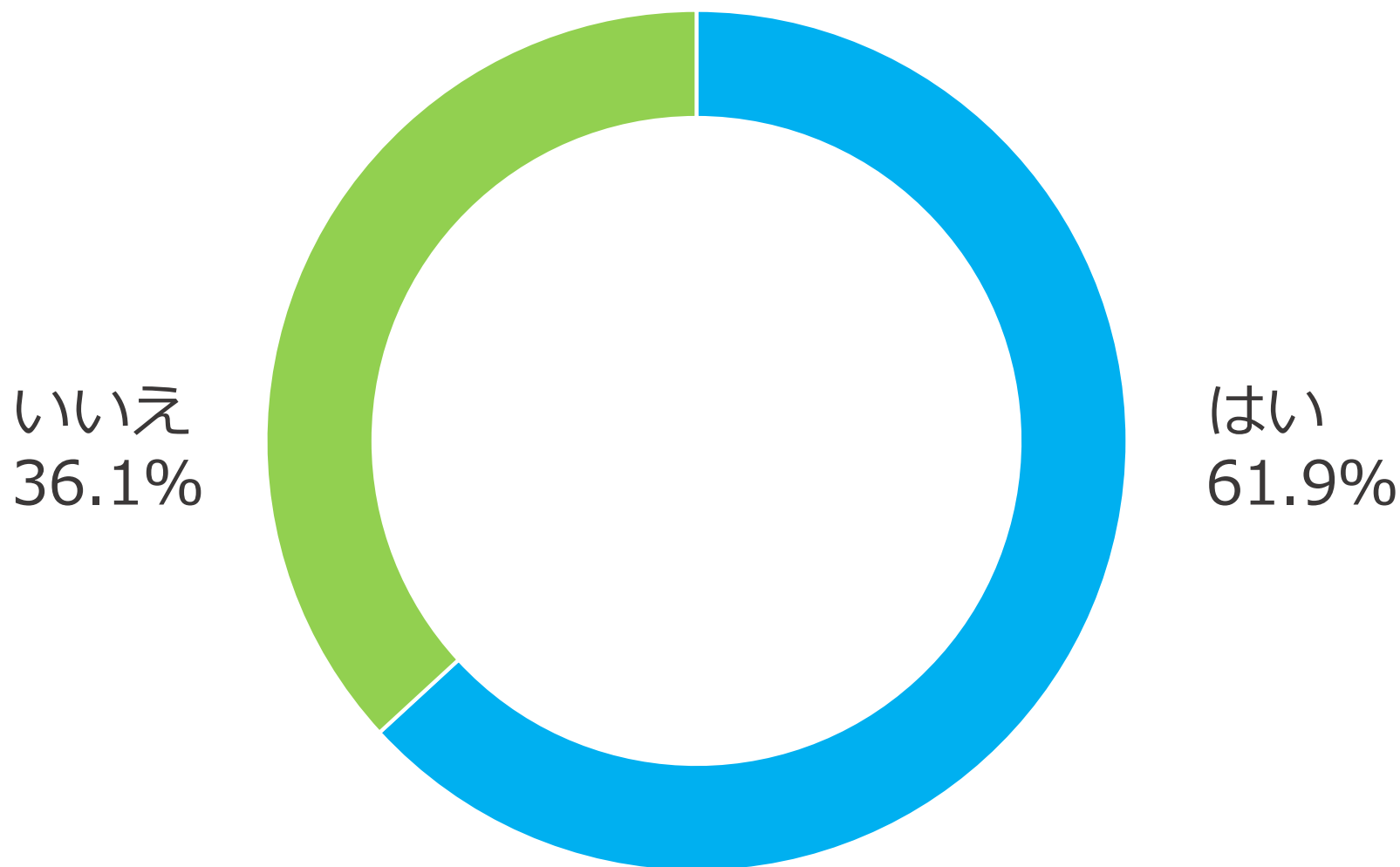
- ・ 必要台数、または業者の指定の理由を尋ねられた際の回答
- ・ 予算の問題 (同様の回答多数)
- ・ 高機能の物を導入すると使いこなせずによく壊されてしまう
- ・ 管理システムの構築・スペース確保
- ・ 職場にシーティングの考え方がそもそも浸透していない
- ・ 費用対効果の説明がしにくい場合がある (シーティングだけの効果検証が難しい)
- ・ 保管場所がない
- ・ 多職種間での連携が難しい
- ・ ケアマネが適切に選択してしまう
- ・ 家族にこだわりの強い方がおり、理解が得られない
- ・ 介護保険での貸与が利用できない場合の費用負担に関する交渉や方法選択に対する身体的精神的なスタッフの負担
- ・ レンタル時、福祉用具貸与事業所やケアマネジャーとの車椅子への導入意識の違い
- ・ 介助する介護職員に対しての姿勢指導
- ・ 補装具として作成することが多いが、身体機能評価後に生活状況に合わせたオプション設定(移乗方法や使い勝手)について介護職等からニーズを拾い上げるのが難しい。また車椅子の型が変わった際にどんな生活様式にしていくか、どう車椅子を使用するか方針伝達が難しい
- ・ 現場の生活支援員の使い勝手が優先されるため、意見調整が必要



Q. 職場内で利用者用または評価用の車椅子及びクッションなどについて、予算化はされていますか？

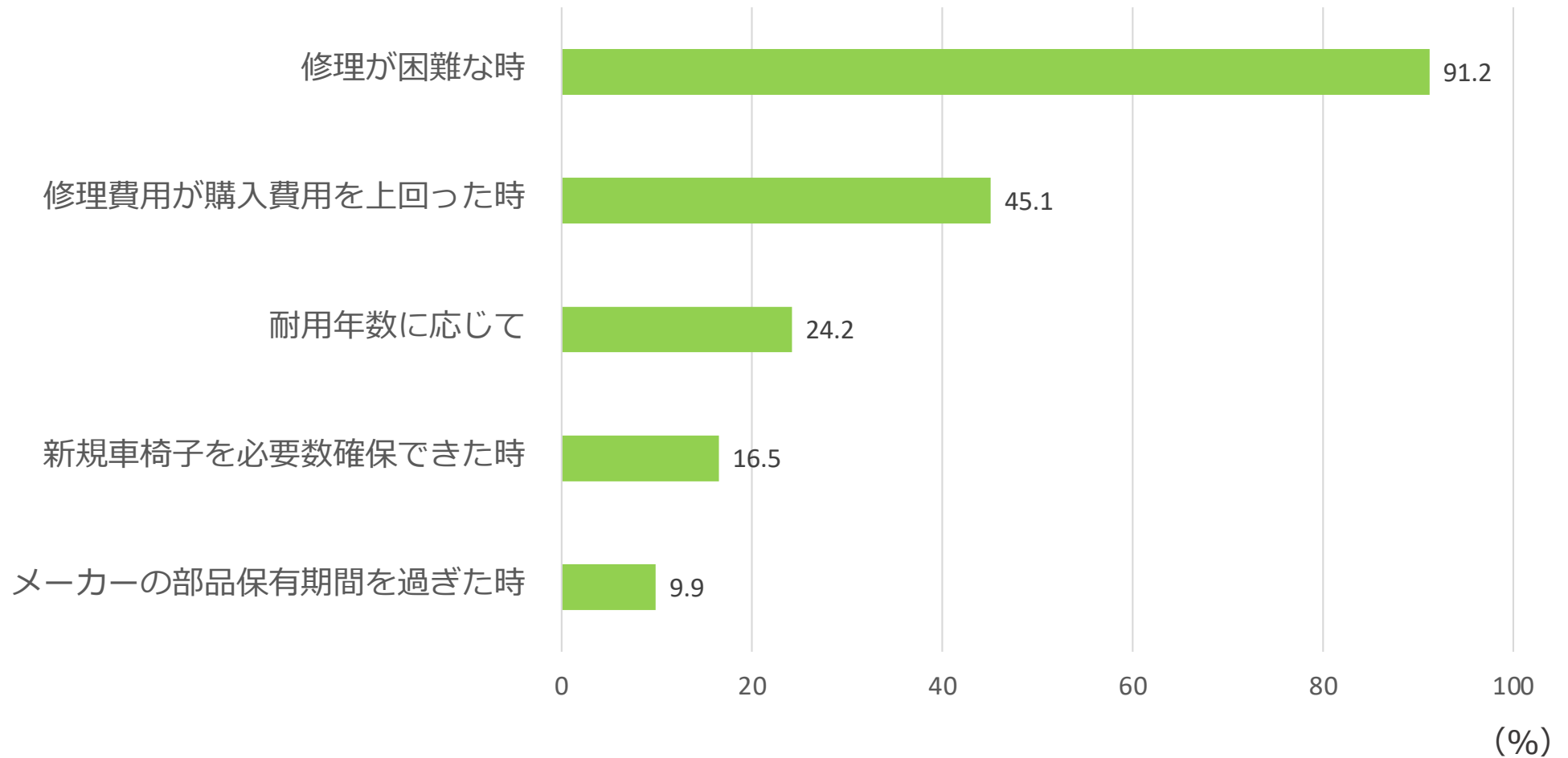


Q. あなたは、職場内での車椅子の導入 (備品導入や施設レンタルなどに関わらず) において、 機種や数量の決定に関わりますか？



Q. 職場の物品の廃棄基準があれば教えてください

(複数選択可)



Q. 職場の物品の機種や数量、またはその内訳はどのように決定しているか、教えてください

- ・利用者が離床できる数があるかどうかで判断される
- ・患者データに見合った状態になるように決定している
- ・年間の使用頻度。使用頻度の多い時期はレンタルで代用している
- ・褥瘡委員会などに意見を挙げる形をしているが、決定機関はなく、課長の裁量で決定される
- ・使用頻度や、多様性（サイズ調整や操作などを色々試せるか）で決定する
- ・必要台数や種類を確認し、その時の収支などの状況を踏まえて、看護部長と相談し、病院へ稟議書を提出
- ・車椅子物品の係で必要物品について意見を出し合い、その中からセラピストに意見を募って決定する
- ・20万円を超える物品は、年に1回高額物品請求を病院にプレゼンテーションし承認されれば購入できる
- ・SC取得者で相談して決定する
- ・備品の内訳を考慮し、レンタルとのバランスを考慮して決定する
- ・数量は在庫が足りずに困った段階で上司の裁量で決定する
- ・全台の状態チェック表を作成し、予測されるリスク含め廃棄候補台数の報告を行い、補填台数を決定する
- ・病床数に占める座位保持困難者の割合を算出し、必要台数を計算するなどを行う
- ・疾患特性（座位能力、変形）、ベッド数、離床状況
- ・機種は経験的に多くの方に利用できるモジュラー車椅子。数量は入所者に応じて決定する
- ・廃棄した台数分を、重症者用と軽症用で座位能力に合わせて、入院患者のレベルと使用状況を分析する
- ・セラピストが看護師や介護職員と相談して決める
- ・過去の入院患者の実績から決めている

